

Access Information for KUJI CITY

■新幹線～八戸線～バス

東京駅	東北新幹線 2時間10分	盛岡駅	東北新幹線 25分	二戸駅	新幹線リレーバス (JRバスツアー号) 1時間10分	久慈駅
仙台駅	東北新幹線 40分	秋田新幹線	1時間30分	八戸駅	JR八戸線 1時間40分	
秋田駅	秋田新幹線 1時間30分	新青森駅	25分	八戸駅	JR八戸線 1時間40分	

■バス・三陸鉄道

盛岡駅	JRバス(白標号)/若手県北バス(こはく号) 2時間45分/2時間15分	久慈駅
東京駅	若手県北バス(若手きずな号) 10時間40分	
宮古駅	三陸鉄道リアス線 1時間40分	

■自動車

東北自動車道	川口JCT	盛岡IC	東北・八戸自動車道	九戸IC	一般道	久慈駅
約5時間20分	約5時間20分	1時間20分	1時間20分	50分		
三陸沿岸道路	八戸是川IC	一般道	5分			

■三陸沿岸道路

盛岡IC	宮古盛岡横断道路	宮古中央IC	三陸沿岸道路	久慈IC	一般道
1時間20分	1時間	1時間	40分	5分	

■花巻IC

釜石自動車道	釜石中央IC	三陸沿岸道路	久慈IC	一般道
1時間5分	1時間40分	1時間40分	5分	

■仙台港北IC

三陸沿岸道路	陸前高田IC	三陸沿岸道路	久慈IC	一般道
1時間30分	2時間15分	1時間40分	5分	

道駅のだて北三陸

久慈市・洋野町・野田村・普代村4市町の玄関口として、観光案内所、産直、地元食材を使った飲食コーナー、インシツペ公園などの施設が整備。

道の駅くじやませ土風館

久慈市出身の柔道家・三船久蔵十段が行った柔道の振興や発展、国際化の偉業の顕彰を目的とした施設。足跡や書道作品、遺品などを展示。柔道場も併設しています。

久慈市情報交流センター YOMUNOSU

観光案内所と図書館がひとつになった複合施設。「あまちゃん」に関する展示スペースや地産地消カフェ、展望室などもあり、市民はもちろん観光客にも広く利用されています。

小袖海女センター

海女を紹介する展示コーナーや軽食スペースを備えた小袖海岸の観光拠点。夏季には北限の海女による素潜「実演」も行われます。北限の海女による素潜「実演」も行われます。

久慈地下水族科学館 もぐらんぴあ

東日本大震災を生き抜いた「かめ吉」が三陸の魚たちと泳ぐトンネル水槽や、海女の素潜り実演が見られる海水槽が人気。4階には施設の応援団長「さかなフク」のコーナーも。

久慈市勢要覧 2022

久慈市の花鳥木

つつじ

うぐいす

しらかば

久慈市の歩み

- 2006(平成18)年**
 - 3月6日 新久慈市誕生
 - 4月29日 ベっぴんの湯がリニューアルオープン
- 2007(平成19)年**
 - 3月31日 国民宿舎北限園が閉園
 - 10月13-14日 くれっと1やまがた街道祭(けえどあい)を初開催
- 2008(平成20)年**
 - 1月24日 大相撲元小結新乃花(本名・谷地仁)引退
 - 4月1日 市民バス「のるなっとKUJI」運行開始
 - 4月8日 やませ土風館、平庭高原自然交流館しらかばの湯がオープン
 - 9月18-21日 久慈秋まつり山車組全8組が手づくり山車運行
- 2009(平成21)年**
 - 1月31日 栃乃花新妻式。年寄り「二十山」襲名披露
 - 4月1日 妻生小中学校が平山小・侍浜小と夏井中・侍浜中に統合。稲畑中が山形中に統合
 - 6月14日 全国闘牛サミットin久慈開催
- 2010(平成22)年**
 - 4月1日 枝成沢小学校が久慈小学校に、久慈高校山形校が久慈高校に統合
 - 6月12日 米国フランクリン市と姉妹都市締結50周年(9月29日～10月7日・両市訪問事業を実施)
 - 10月5日 希望郷いわて国体柔道競技開催
 - 11月6日 あまちゃんマラソン大会初開催
- 2011(平成23)年**
 - 3月11日 東日本大震災
 - 4月1日 日野沢小学校・響小学校が山形小学校に統合
 - 6月8日 函館から小型漁船22隻が無償提供
 - 8月5日 もぐらんぴあまちなか水族館オープン
- 2012(平成24)年**
 - 4月1日 戸呂町小学校・荷経部小学校が山形小学校に統合
 - 5月29日 被災した久慈市宮魚市場卸売場が復旧
 - 6月22日 体長20メートル級の大型恐竜化石発見
- 2013(平成25)年**
 - 3月22日 久慈-東京間を若手きずな号が運行開始
 - 4月1日 NHK連続テレビ小説「あまちゃん」放送開始
- 2014(平成26)年**
 - 4月1日 山根小中学校が小久慈小学校・長内中学校に統合
 - 7月9日 リニア共和国クライベグ市と姉妹都市締結25周年(9月17日～20日・両市派遣団が久慈市を訪問)
 - 12月24日 被災した小袖海女センターが再建
- 2015(平成27)年**
 - 4月26日 小袖海女センターが再建オープン
 - 12月8日 被災した地下水族科学館もぐらんぴあ主要な改築工事が完了
- 2016(平成28)年**
 - 4月28日 もぐらんぴあがリニューアルオープン
 - 6月12日 全国闘牛サミットin久慈開催
 - 8月6日 あまちゃんハウス移転
 - 8月30日 台風10号被災
 - 10月8日-10日 希望郷いわて国体柔道競技開催
 - 11月6日 あまちゃんマラソン大会初開催
- 2017(平成29)年**
 - 9月14日-17日 台風10号により中止となっていた久慈秋まつりが復活
 - 11月19日 国道281号案内トンネル、新宇谷橋が開通
- 2018(平成30)年**
 - 3月24日 小国小学校が山形小学校に統合
 - 6月24日 ティラノサウルス類の化石発見
 - 10月3日 青森県鮎ヶ沢町と「歴史文化で結ぶ友好協定」を締結
- 2019(平成31・令和元年)**
 - 7月9日 リニア共和国クライベグ市と姉妹都市締結30周年(5月26日～6月3日両市訪問事業を実施)
 - 8月6日 総合防災公園開園
 - 10月12日 台風19号被災
- 2020(令和2)年**
 - 3月27日 市と市内事業所5社でつくる「久慈地域エネルギー」がアマリングリーン電気供給開始
 - 7月5日 久慈市情報交流センターYOMUNOSUオープン
 - 10月7日 青森県鮎ヶ沢町、弘前市、黒石市、秋田県横手市と「歴史文化で結ぶ友好協定」を締結
- 2021(令和3)年**
 - 3月20日 稲畑小学校が山形小学校に統合
 - 3月20日 八戸・久慈自動車道全線開通
 - 6月19日 東京2020オリンピックの聖火リレーが開催
 - 12月18日 三陸沿岸道路全線開通
- 2022(令和4)年**
 - 4月8日 侍浜町にこみをエタノールに変換する実証プラントが完成
 - 4月8日 久慈城跡が若手県指定史跡に決定
 - 4月11日 新山根温泉べっぴんの湯が2年ぶり営業再開

久慈市勢要覧 2022

編集・発行 / 久慈市総合政策部 〒028-8030 岩手県久慈市川崎町 1-1
TEL 0194-52-2111 FAX 0194-52-3653 <https://www.city.kuji.iwate.jp>

ホームページ

Facebook

Twitter

LINE

久慈市

子どもたちに誇れる 笑顔日本一のまち 久慈

久慈市地図 KUJI CityMap

1 平庭高原スキー場

久慈平庭県立自然公園に指定された日本一の白樺美林。広大な白樺林を滑り抜ける爽快なスキーが楽しめます。

2 道の駅 白樺の里やまがた

道の駅内にガタコンサイイ(久慈市ふるさと物産センター)では、まめぶや特産品・山形村短角牛に加え、さまざまな民芸品、木工品などを扱うことができます。

3 久慈琥珀博物館

国内唯一の琥珀専門博物館。ジオラマで再現した太古の森や、久慈や世界で発掘された貴重な琥珀などを展示。琥珀の採掘や琥珀玉づくりなどの体験メニューも好評です。

4 新山根温泉 べっぴんの湯

改修工事を経て2022年4月に営業を再開。東北随一の強アルカリ性(pH10.7)のお湯で、湯上りの肌は、つるつる・すべすべ。「美肌の湯」として人気です。

5 道の駅くじやませ土風館

観光案内所や産直コーナー、お土産・工芸品の販売のほか、海鮮料理が自慢のレストランや、豪華絢爛な久慈秋まつりの山車も展示されています。

実現すれば、全高約300mの巨大な風車が海上に並び、



1 乾燥チップを利用した熱エネルギー輸送の取り組みをしている久慈バイオマスエネルギー株式会社 2 再生可能エネルギーによって得られた電力を市の施設に利用 3 2019年に東北9市町村で2050年までの二酸化炭素排出量実質ゼロの目標を共同発表 4 再生可能エネルギーの供給源となっている滝発電所

久慈市は地球温暖化対策の推進と地域社会の持続的発展を目指し、脱炭素社会の実現に向けた動きを加速。2050年度の温室効果ガス排出量実質ゼロに向けて取り組みを進めています。再生可能エネルギーの地産地消や、バイオマスを利用した熱エネルギーの地域への供給、「地域循環共生圏」による他地域との連携、その取り組みは多岐にわたります。なかでも、いま最も注目されているのが洋上風力発電です。海面に浮かべた浮体の上に風車を設置して発電する「浮体式洋上風力発電」の導入に向け、海底の地形や風況などの調査、関係者との対話を続けています。また脱炭素・環境保護など持続可能な社会の観点からも、一般ゴミからエネルギーを抽出する世界初の技術を持つ企業を誘致。待浜地区に建設されたプラントで2022年から実証実験が行われています。

久慈市が取り組む脱炭素社会の実現



久慈市が誇る農林水産物

久慈市ではその気候風土を生かしながら、地域の産業を育ててきました。久慈市を代表する農産物といえば、ほうれんそうと菌床しいたけ。近年では冬の寒さにあてて糖度を高めた「寒じめほうれんそう」が人気です。丸太に種コマを打ち込み木立の中で露地栽培する原木しいたけや木炭の生産も、森林とともに生きてきた久慈市の大切な産業として次世代への技術継承が進められています。また水産業の新たな柱となることを目指して、久慈湾でのギンザケ養殖もスタート。2022年には「久慈育ち琥珀サーモン」の愛称で約672kgが水揚げされました。主に山形町で生産される「山形村短角牛」も、全国で高い評価を受ける久慈を代表する特産品。広大な草原でストレスなくのびのびと育つその赤身の肉は、かめばかむほど肉本来のおいしさを感じられる逸品です。

安心して暮らせる久慈市へ防災への取り組み

久慈市ではさまざまな自然災害に対応するため、各種防災設備の強化を進めています。その一つが「久慈港湾口防波堤」の整備です。1990年から久慈湾にて整備を進めているもので、2022年度末現在約2900mが完成。2033年度までに総延長3800mの完成を目指しています。また相次いで発生した台風による市街地の浸水被害を受け、低地にたまった水を強制的に排水する雨水ポンプ場の整備も市内3カ所で行われています。ハード面の対策とともに取り組んでいるのが自主防災組織の結成です。住民自らが自主的・組織的に避難の呼びかけや避難訓練などの防災活動を行うほか、災害の恐れがあるときには、高齢者や体の不自由な人など避難が困難な方を地域ぐるみでサポートすることが期待されています。



2033年度の完成を目指す久慈港湾口防波堤

現代へとつながり、広がる久慈の歴史と文化

久慈川沿いに開けた平野を一望する丘陵に築かれた久慈城は、南部氏の一族であった久慈信実が居城した後、久慈氏代々が居城。その跡には現在でも主郭や濠跡、馬場跡などが良好な状態で残り、中世山城の条件を備えた貴重な史跡であるとして、2022年4月、久慈城跡は岩手県の史跡に指定されました。また、津軽藩の始祖として歌われている戦国時代の武将・大浦光信が久慈の出身であることから、2020年10月、光信と津軽に関わりのある岩手・青森・秋田の5市町が「歴史文化で結ぶ交流宣言」を締結。歴史の縁を後世に伝えながら、現代における交流の輪も広がっています。ほかにも、山形町で受け継がれる伝統食「まめぶ」や、日本一の白樺林、「平庭闘牛大会」など、独自の文化が今も久慈には息づいています。また、津軽藩の始祖として歌われている戦国時代の武将・大浦光信が久慈の出身であることから、2020年10月、光信と津軽に関わりのある岩手・青森・秋田の5市町が「歴史文化で結ぶ交流宣言」を締結。歴史の縁を後世に伝えながら、現代における交流の輪も広がっています。ほかにも、山形町で受け継がれる伝統食「まめぶ」や、日本一の白樺林、「平庭闘牛大会」など、独自の文化が今も久慈には息づいています。また、津軽藩の始祖として歌われている戦国時代の武将・大浦光信が久慈の出身であることから、2020年10月、光信と津軽に関わりのある岩手・青森・秋田の5市町が「歴史文化で結ぶ交流宣言」を締結。歴史の縁を後世に伝えながら、現代における交流の輪も広がっています。



久慈市は世界有数の琥珀の産地。約9000万年前という世界でも突出して古い時代、恐竜たちが闊歩していた中世白亜紀後期の地層から採掘される琥珀や化石は、学術的にも高く評価されています。この地層からはこれまで、大型植物食恐竜や小型肉食恐竜の歯、カメやワニ類の骨格など約30種2600点以上の化石を発見。日本の恐竜時代の生物相を探るための貴重な資料となっています。また日本最大の「三陸ジオパーク」、1000kmに及ぶ長距離自然歩道「みちのく潮風トレイル」のコースにも含まれる久慈市は、地球と地域の物語を身近に感じられる場所。久慈渓流や久慈海岸（小袖海岸）、内閣木洞などさまざまなジオサイトが、ダイナミックな地球の躍動やそこに生きる人々の生活や暮らしの知恵、自然災害の記憶まで、歴史や文化、自然の営みを今に伝えています。

琥珀と恐竜、ジオの眠るまち



「ロケツーリズム」で地域の魅力を発信



大人気を博したNHK連続テレビ小説「あまちゃん」で得られた地域の高揚感や知名度を最大限に活用し、ロケ地として新たな映像作品を誘致すること、また地域のファンを増やし、継続的に地域の魅力を発信していくことを目的に、久慈市では2016年から「ロケツーリズム」に取り組んでいます。ロケの受け入れや情報発信などに加え、観光資源の磨き上げやおもてなし力の向上など、受け入れる側のブラッシュアップにも積極的。バラエティや旅番組などのテレビ番組に加え、「星屑の町」（杉山泰一監督/2020年公開）、「永遠の1分。」（上田慎一郎監督/2022年公開）の2本の映画作品の誘致も実現。撮影終了後にはロケ地を看板を設置したり、シーン写真をマップに掲載するなど、ロケ地となった場所や施設の周知にもつなげています。

久慈市では旭町の「元気の泉」内に設置された「子育て世代包括支援センター」「保健推進課」「地域包括支援センター」で、各年代に対しさまざまな取り組みを行っています。高齢者に向けた介護予防事業「いきいき百歳体操」「かみかみ百歳体操」のほか、認知症への理解を深めることを目的とした「認知症サポーター養成講座」や、自殺防止対策としての「ゲートキーパー養成研修」「うつスクリーニング」などを通じ、誰もが住み慣れた地域で自分らしい生活を継続できるよう支援を行っています。子育て世代に対しては、国が行っている保育料軽減策に加え、市独自の軽減策を導入。生後4カ月未満の乳児がいる家庭には保健師や看護師が訪問し、育児相談や乳幼児健康診査等の案内、育児情報の提供を行うほか、お母さんの孤立化防止にも努めています。

誰もが住み慣れた地域で自分らしい生活を



「いきいき百歳体操」には現在72団体881名が参加（2022年度）

「柔道のまち久慈」を県内外に発信

柔道の発展に貢献し「柔道の神様」とも称される三船十段を輩出した久慈市では、「柔道のまち久慈」を県内外に発信していくため、各種柔道大会や柔道教室などを開催しています。なかでも「三船十段杯争奪柔道大会」は半世紀以上に続く東北規模の大会で、小学生から一般選手まで幅広い年代の選手が多数参加しています。ほかにも、久慈市の指定強化選手の選抜補助も実施。競技力の向上や競技人口の拡大とともに、柔道に対する市民の理解や認知度の向上にもつながっています。



三船十段記念館道場で汗を流す子どもたち